

『大作曲家の裏には名演奏家あり』

ベートーベンに影響を与えた

コントラバスの名手 ドラゴネッティ

榊原 利修

さかきばら としのぶ

- ・ セントラル愛知交響楽団 コン
トラバス奏者 楽団長
- ・ 2003年チェコ共和国に留学
- ・ 中博昭（なか ひろあき）先生
に師事





ドメニク・ドラゴネッティ



ドメニク・ドラゴネッティ

- ・ 1763年生まれ
- ・ イタリア ヴェネツィア生まれ
- ・ 83歳で逝去
- ・ 13歳でオペラ劇場の首席コントラバス奏者に就任
- ・ **1799年**（36歳）の頃にウィーンでベートーベンと会う



1799年当時

もともと知り合いのハイドン
に会うためにウィーンを訪れる



ドラゴネッティ：36歳

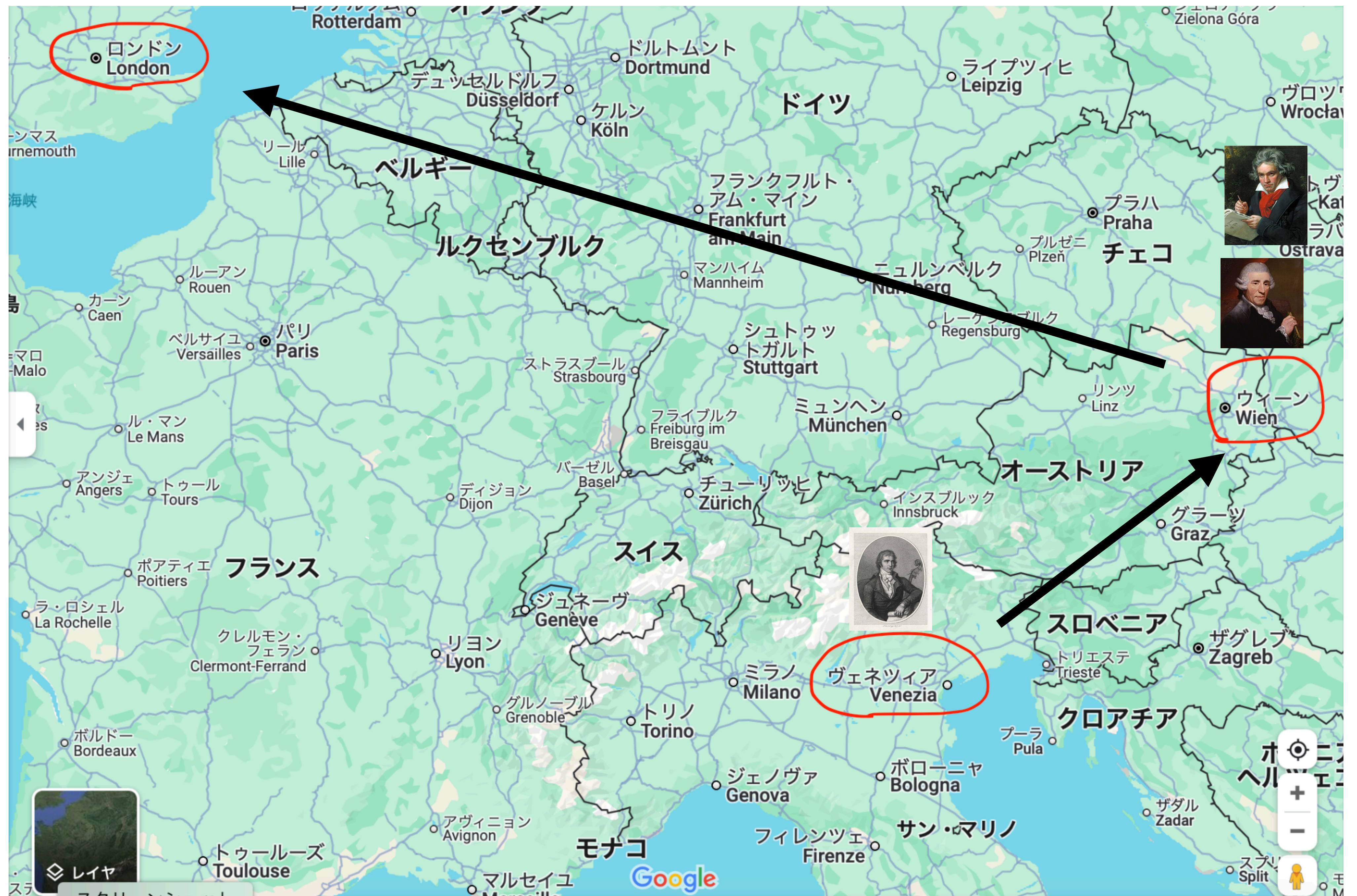


ハイドン：67歳
ウィーン在住

ベートーベンの作曲の師匠



ベートーベン：29歳
ウィーン在住



『ベートーヴェンは、新しい友人（ドラゴネッティ）が大きな楽器でチェロ曲を弾きこなせると聞いたので、ある朝、彼（ドラゴネッティ）が部屋を訪れてきたとき、ソナタを聴きたいとドラゴネッティに伝えた。

そして、ドラゴネッティはコントラバスを運んできて、
ベートーベン作曲・チェロ ソナタ第2番 を選んだ。

ベートーヴェンはピアノで伴奏をしながら、目はドラゴネッティに釘づけになり、最終楽章でアルペジオにさしかかると、嬉しさのあまり興奮して、演奏を終えるやドラゴネッティのところに飛んで行って楽器ごと抱きしめた。』



ドラゴネッティの弾いていた様子



ドラゴネッティボウ
(ドラゴネッティ弓)

弓矢の弓



ドラゴネッティ弓



現代の弓



ドラゴネッティ

- ・ 3本の弦のコントラバス 弓はドラゴネッティ弓
- ・ ドラゴネッティが弾いていたコントラバスは今の楽器よりも弾きにくかった
- ・ ドラゴネッティはベートーベンにコントラバスの新たな楽器の可能性を伝えた

ハイドン 交響曲第101番『時計』

第1楽章ス

Largo.

Flauti.

Oboi.

Fagotti.

Corni in B.
(basso)

チェロとコントラバスは
1段で書かれている

Timpani in B.F.

Violino I.

Violino II.

Viola.

Violoncello
e Basso.



弦楽器は
4段

A sua Altezza Serenissima il Principe di Lobkowitz

Symphonie Nr. 3

(Eroica)
Es-dur

Ludwig van Beethoven op. 55
herausgegeben von Peter Hauschild

ベートーベン 交響曲第3番冒頭 スコア

Allegro con brio (♩. = 60)

Flauto I II

Oboe I II

Clarinetto I in B II

Fagotto I II

Corno in Es I II

Corno in Es III

Tromba in Es I II

Timpani in es, B

Allegro con brio (♩. = 60)

Violino I

Violino II

Viola

Violoncello

Contrabasso

ヴァイオリン1

ヴァイオリン2

ビオラ

チェロ

コントラバス

Allegro con brio (♩. = 60)

Violino I

Violino II

Viola

Violoncello

Contrabasso

弦楽器が5段になっている

ベートーベン

1792年（21歳） ハイドンに弟子入り

1795年（24歳） 本格的に作曲を開始 チェロソナタ1、2番など

1798年（27歳） 聴覚の低下が始まる

1799年（28歳） ドラゴネッティと出会う

1800年（29歳） 交響曲第1番、弦楽四重奏1～6番など

1802年（31歳） 交響曲第2番 ハイリゲンシュタットの遺書

1803年（32歳） 交響曲第3番 『英雄交響曲』

演 奏

ドラゴネッティ 作曲

コントラバス協奏曲より 第1楽章